

# バレエ『鶴の召命』における「天人合一」思想の現代的な解釈

The Modern Interpretation of the Ideology between Man and Nature in the  
Ballet *The Crane Calling*

郭琦琪

Guo Qiqi

Since the introduction of the ballet from Russia in the 20th century, the Chinese ballet has been studying the classical ballet. In the meantime, it has also added the Chinese cultural elements and continuously tried to show the world a distinctive ballet with its own style. Led by the National Ballet of China, the Chinese ballet has been creating ballets with Chinese cultural elements especially. From the year of 1990 the development of the society led to the prosperity of the Chinese ballet. And a great number of characteristic ballets have sprung up. Among these ballets, *The Crane Calling* (2015) has become a representative excellence in the latest ten years. This thesis analyses the choreography of this ballet. Combined with the cultural meaning of the associated crane, this thesis discusses the contemporary cognition of the ideal of harmony between human and nature which is embodied in the *Crane Calling*.

キーワード：『鶴の召命』、現代中国バレエ、天人合一、民族化、現代中国の自然観

## 1. 研究の背景と本論文の目的——現代中国バレエの発展とバレエ『鶴の召命』<sup>1</sup>

中国バレエは、20世紀にロシア・バレエが流入してから現在まで絶えず改革され発展してきた。中央バレエ団をはじめ、バレエに中国の文化的要素を取り入れたバレエ作品が、中華人民共和国建国以来数多く発表されてきた。中国バレエは西洋文化の影響を受けると同時に、自らの民族の文化を重視し、バレエの古典的作品に学びながら、独自のバレエを創作してきた。

謝凡によれば、「芸術の民族化」とは、自らの民族の特性、民族のイデオロギーによって、内容から形式、美学意識から芸術の表現、さらに、芸術の流派から作品の体系および芸術的な技術のような面まで、他の民族の芸術を分解し、改造して吸収することを言う。<sup>2</sup>本論文では、謝凡に従い、外来の芸術を吸収して中国文化のイメージに合わせて再構築するという現象を「民族化」と呼ぶ。

中国バレエの歴史を「民族化」という概念を軸にして整理すると、現在までの中国バレエの発展は、主に、「探究期」（1949－1965）、「文革期」（1966－1976）、「発展期」（1977－1989）、「繁栄期」（1990－）という四つの時期に分けられる。四つの時期における代表的な作品によって、中国バレエの「民族化」の表現の変化を辿ることができる。<sup>3</sup>

「探究期」（1949－1965）は、軍事的に強い中国のイメージを作ろうとしながら、『紅色娘子軍』、『白毛女』のような作品によって「民族化」された中国バレエを実践した。1966年に文化大革命がはじまり、1976年文革終了まで中国バレエは特別な時期に入った。中国バレエの発展史の研究者の鄒之瑞、陳瑞、羅辛は、この特別な時期を「文革期」と呼んでおり、本論もこれに従う。<sup>4</sup>「文革期」の中国バレエの民族化は、政治的また軍事的な題材を用いて表現された。探究期から存在した『紅色娘子軍』、『白毛女』という二つの作品は「样板劇」<sup>5</sup>（模範劇）となり、文革後に改作された後も上演され、代表的な作品として保存された。文革期は中国舞踊の発展にとって矛盾した意義を持つ時期である。中国全土では、「忠字舞」<sup>6</sup>が踊られ、人間の身体による舞踊が大いに活用されていた時期である。しかし、中国舞踊が軍事的な傾向や政治的な左派によって歪められてしまった面もある。芸術的観点から見ると、江青などが中国の伝統的な民族芸術を恣意的に否定したことによって中国舞踊の発展が妨げられた。文革後の「発展期」（1977－1989）に入ると豊かに繁栄する国のイメージを作ろうとして、中国古典舞踊や、戯曲、民族舞踊とバレエ技法を融合する試みが行われた。さらに、社会の安定及び経済力の発展に伴って、中国バレエが「繁栄期」（1990－）を迎えた。「繁栄期」には、「発展期」の経験に基づき、バレエで中国の精神的な豊かさを表す作品が創作されている。大量の伝統舞踊、戯曲のような要素をバレエに取り入れ、物質的な豊かさを強調した発展期の中国バレエと比べ、現在の「繁栄期」の民族化の表現は、中華人民共和国を構成する多民族による無形文化遺産を再考し、現代中国人の民族的プライドを反映し、伝統思想を強調する方向に変化している。<sup>7</sup> 2000年代に入ると『大紅灯籠高高掛』（2003）、『過年』（『くるみ割り人形』中国版）（2005）のような作品がその例として挙げられる。『大紅灯籠高高掛』では、時代の変化を背景として、伝統的な良妻賢母と対照的な「新女性」の自己意識を強調し、伝統性と近代性を併せ持つ、矛盾した女性像が表現されている。『過年』においては、現代中国社会における物質的な豊かさが表現されている。その一方で、中国に伝統的な「家」と「和」の概念を取り出し、中国的な家庭の観念が強調されている。

2010年以降の作品の中では、『鶴の召命』（2015年初演、2016年改定版上演）が現代中国バレエの代表的な作品として挙げられる。『鶴の召命』においては、「天人合一」という中国の伝統的な思想がバレエによって再解釈され、中国的なものの精神的、文化的価値に目を向けるようになっている。本論文では、中国中央バレエ団（以下「中央バレエ団」）の作品である『鶴の召命』について考察し、主人公の人物像と文化的象徴である「鶴」との関連を分析しつつ、この作品に見られる民族化の表現、つまり、バレエという外来の芸術を用いて表現される現代中国人の自然観について論じたい。

## 2. バレエ『鶴の召命』の概略と批評

### 2.1. バレエ『鶴の召命』の概略

『鶴の召命』は、1987年の嵐の際に自分の命で鶴を守った実在の若い女性である「徐秀絹」

の実話に基づいて創作されたものである。中央バレエ団は、実話の舞台である塩城湿地保護区と主人公の故郷である扎龍湿地保護区で鶴の群れの生活を考察し、作品を創作した。<sup>8</sup>この二つの湿原は現代中国の代表的な鶴の保護区であり、鶴の減少を防ぐために設けられている。現実の素材に基づき、さらに恋愛を物語に取り入れたことで、徐秀絹の持っていた無私無欲、勇敢さ、英雄的行為がよりわかりやすくなっている。この作品は2015年に初演され、その後、改訂版が2016年より上演されている。

本論文では、『鶴の召命』について分析を展開するが、まず分析する資料について述べておきたい。

筆者が以下で分析するのは改訂版である。筆者は、2015年9月23日に北京天橋劇場で上演された初演版は見る機会がなかった。しかし、2016年5月8日に天橋劇場で上演された改訂版を見ている。その後、2016年10月に中国中央バレエ団の許可を受けて、二週間の間、バレエ団の内部資料室で映像資料NBC-The Crane Calling-Act1 (45分)、NBC-The Crane Calling-Act2 (45分)を見ながら、作品を分析して記録した。従って、使用している研究対象は、筆者が中央バレエ団によって視聴する許可を得た、2016年5月8日に上演された対外公開版(改訂版)である。改訂版において、総監督は馮英であり、振付は馬聡と張鎮新である。音楽は瀋逸文、主人公の「夢娟」は王啓敏が踊っている。

中央バレエ団のホームページには、初演の際の基本情報及び作品構成が掲載されている。この情報に基づいて、ホームページに掲載されている初演版の構成や粗筋と改訂版のパンフレットの内容を比較してみると、粗筋のタイトルが異なっている。<sup>9</sup>ホームページによると、初演の構成は卒業式直後の場面を扱う序幕、第一幕「青春の旋律」、第二幕「青春への賛美」であり、作品の筋立てが人間に比重をおいて展開されていると推察される。一方、改訂版は、フラッシュ・バックの技法を用い、初演にはない「鶴の思い出」という、主人公の夢娟が亡くなってから一年後の秋の場面から物語を展開しており、作品の時間構造が複雑になっている。作品は、序・「鶴の思い出」、第一幕「青春の謳歌、未来への憧れ」、第二幕「沃野の上の飛翔、雲の彼方」という三部構成で、初演に比べて、鶴に焦点が当たっており、人間と鶴の繋がりが強調されていると思われる。

## 2.2. 『鶴の召命』改訂版

以下に述べるのは改訂版の粗筋である。まず、序「鶴の思い出」は、夢娟がなくなってから一年後の鶴の飛来地の秋の場面から始まる。序「鶴の思い出」は三つの場面、すなわち、夢娟の恋人の致遠が、亡くなった夢娟を思う場面、死んだ夢娟が現れる場面、致遠と夢娟に救われた鶴の丹丹とパ・ド・ドゥを踊る場面からなる。最後に、丹丹が退場し、鐘の音が聞こえ、致遠は、深い思いのうちに、卒業式の光景に引き戻される。

第一幕は「青春を謳歌、未来への憧れ」というタイトルで主に二つの場面で展開されている。第一場「鶴の恋」と第二場「鶴の呼び声」である。第一場は盛夏で、夢娟と致遠の母校では卒

業の日を迎えていた。立派な建物の舞台装置があり、学校という人間の空間が表現されており、その後の第二幕における自然の風景の空間と対比されている。卒業のダンスパーティーで、学生たちは青春を謳歌し、互いに離れがたい気持ちを訴えている。致遠は心を込めて夢娟の誕生日パーティーを計画する。四年間の大学生活で、二人の間で同級生としての友情ばかりではなく、愛情が芽生えた。ここでは、夢娟と致遠の初めてのパ・ド・ドゥが踊られる。

第二場「鶴の呼び声」では、夏の夜、学校の庭で愛の告白のパ・ド・ドゥが始まる。致遠はバラを差し出して自分の夢娟への愛を告白する。しかし、夢娟は、心が沈み込んで迷ってしまう。ここで、学校という人間の空間の中へ、初めて「自然」（鶴、雛鶴）の空間が侵入してくる。子供時代の夢娟と鶴の丹丹と夢娟の父親が舞台に登場し、夢娟と致遠と一緒に時空を越えて踊る場面である。このような表現によって、夢娟がすぐに致遠の気持ちを受け入れられない理由が表現されている。夢娟は卒業後、致遠と都市に留まらずに、鶴を世話するという理想の仕事のために、故郷に戻る決心であることを伝える。

第二幕「沃野の上の飛翔、雲の彼方」においては、第一幕と対比される「自然」の空間で三つの場面が展開されている。第一場「鶴との縁」では、夏の終わり、葦のある水辺の舞台装置で、芦がゆらゆらと揺れ、鶴の群れが金色の黎明の中で散歩したり、鳴いたりする。ここでは、鶴の女王の丹丹、雛鶴などのキャラクターダンス、群舞が踊られる。夢娟は丹丹と葦のある水辺で遊んだり、歌を歌い、互いにもう離れられない気持ちが表現されている。

第二場「鶴を守る」では、秋の夜、鶴の飛来地の木の小屋で、夢娟は致遠に手紙を書く。その後、夢娟の夢の中で夢娟と致遠のパ・ド・ドゥが展開され、二人の親密さを表す振付と空間の使い方によって、夢の中で恋人を思う気持ちが表現される。ところが、突然に、嵐によって夢が中断され、夢娟は丹丹と一緒に危険が迫る中で鶴の群れを救助する。夢娟は泥沼に飛び込んで丹丹を泥沼の中から引っ張り出す。しかし、彼女自身は泥沼に沈んで死ぬ。

第三場「鶴の歌」では、晩秋、葦のある水辺の舞台である。丹丹の呼び声によって、致遠の思い出が中断する。致遠は夢娟の果たされなかった使命を受けて、この汚れない土地を守っている。このような賢い鶴の群れを守ることは、もう彼の最も重要な願いになった。作品の最後の場面では、鶴の群れが翼を羽ばたかせ、致遠は走る動作をして追っているかのようだ。昇りつつある朝日の下で、赤いシルクを掲げた夢娟が舞台の上部空間を通過し、主人公と鶴の群れ、人間と自然の調和的な美しい絵巻が表現されている。

### 2.3. 作品の批評と先行研究

2015年の初演以来、中国国内の新聞やインターネットには、バレエ『鶴の召命』を高く評価する記事が数多く見られる。まず、社会的な意義に関する批評から見ると、中国政府の文化戦略に関する報道が重要である。2017年10月18日、習近平は、第19回中国共産党全国大会で、人間と自然の共生を維持するべきだと指摘した。彼は「緑水青山就是金山銀山」という、良い自然環境は我々の財産という主張を確立し、資源を節約し、環境保護を国家の基本方針として

遵守すべきであると述べた。<sup>10</sup>

国家による鶴の保護区を舞台として展開される『鶴の召命』は、まさにこの方針に合致している。習近平の発言から3週間後の2015年11月9日、中国国家媒体のCCTV13によるテレビニュースで『鶴の召命』の初演について、中国国家文芸部副部長である董偉は、「文芸創作の方法は様々があるが、もっとも根本的で重要な手段としては、人の心に入り込んで、実際の生活を深く把握する方法が大切なのだ。」と発言している。この発言を受けて、「これこそ、文芸事業シンポジウムの際に習近平が提出した方針である。」とCCTV13のアナウンサーがまとめている。

<sup>11</sup>このように、公的な媒体によって、中国のバレエは、文化発展の戦略的方向に従うことが明らかにされた。また同じ番組において「実話に基づいて創作された『鶴の召命』は、聴衆の強い共感を喚起する『新たな経典』であると報道されている」という高い評価が与えられている。

<sup>12</sup>つまり、この作品は、中国政府の文化政策に適合しており、鶴を救うために無私無欲を貫き、自己を犠牲した女性の感動的な物語によって、自己を犠牲にする英雄主義を褒め称えとともに、人間と自然の共生を目指す現代中国人の自然観も強調されていると考えられる。

また、実際の事件は1980年代だったが、なぜ約30年後の現在のバレエの素材として上演されているのかという創作意図の社会的意義も把握しなければならない。中央バレエ団の団長馮英は、インタビューの際に「『鶴の召命』は、『紅色娘子軍』の後、中央バレエ団の代表的な作品になる」と述べている<sup>13</sup>。中国の国情を合わせてみると、作品の中で、自然を守るため自己を犠牲にする女性の英雄の人物像によって、国民を教育する効果を発揮すると考えられる。習近平は2015年2月、北京で第4回全国文明都市・文明村鎮・文明单位・未成年思想道德づくりの先進代表者たちと親しく会見し、重要談話を発表した。そこで彼は「人民には信条、民族には希望、国家には力がある。中華民族の偉大な復興という中国の夢を実現するためには、物質的財産を豊かにすると同時に、精神的財産を豊かにしなければならない。我々は粘り強い精神を持ち続け、社会主義精神文明建設に力を入れ、全国の各民族人民が絶えず前進するための揺るぎない思想的保証、強大な精神力、豊潤な道徳的滋養を提供していかなければならない」と強調した。<sup>14</sup>中国政府は、大衆を育成し、教育し、理想と信念の教育を強化し、卓越した中国の伝統文化を積極的に推進する。中国は、文明建設の活動を深め、大衆の模範に焦点を当て、中国の精神、中国の価値観、そして中国の力強さを表現する、というような政治的な方針がある。このような方針に従って、革命期ではないが、平和な時代にも新たな英雄が国民教育のため必要となる。『鶴の召命』の中で自然を守るために自己を犠牲にする女性の英雄の人物像によって、国民に対する教育効果を発揮すると考えられる。

バレエ作品としての評価に関しては、舞踊評論家による以下のような批評がある。振付について、于平は、「クラシックの色彩がある独自のバレエによって、中国にある実話である『鶴の召命』を語ることに賛同する。『鶴の召命』では、鶴という主人公のイメージ作りはうまく表現できたが、この主人公の動機の展開及び技の洗練には更なる努力が必要だと考えられる。」<sup>15</sup>と

述べている。動物と人間の関係という観点から于平は『鶴の召命』を『白鳥の湖』の続編としている。しかし、于平は二つの作品についてそれ以上に具体的な比較や分析をしていない。

また、馮林は、「激しい劇的な矛盾がないので、これは、演劇で表現しやすい物語ではない。しかし、作品の創作は、大きな成功であった。[中略] 創作者たちは、バレエの元々の詩的な意味と優雅さ、鶴の高潔さ及びその文化的な象徴、また、青春と理想のロマンティックさ、国家級バレエ団の一流の水準、及び芸術的な陶冶（ただ教え込むことではない）を堅持した。そして、観客は、この作品を鑑賞して満足したのである」<sup>16</sup>という振付の芸術性に対して好意的な批評をしている。

しかしながら、以上の二つの例のように、作品の題材や振付について簡単な批評はあるが、初演以来現在まで、学術的な研究および作品についての具体的分析はまだない。本論文は、作品の構成及び振り付けについて初めて分析を行い、この作品における人間と自然との共生及び文化的象徴としての鶴の表現を考察することによって、作品における「天人合一」の思想の現代的解釈について論じて行く。

### 3. 現代中国の自然観とバレエ『鶴の召命』における人間と自然の関係

#### 3.1. 現代中国社会における「自然」の理解

バレエの構成を分析する前に、まず、中国の思想における「自然」の概念について説明する。現代中国人の持つ「自然」の概念には、中国の伝統思想を踏まえつつ、現代の「自然環境」の意味も含まれている。伝統思想における「自然」は、西洋の物理的な「自然環境」とはことなり、戦国末期の道家によって、人間の感情や気持ちが含まれた心情的な概念として使用され始めた。この「自然」について、『中国思想文化事典』の中では以下のような説明がある。「万物や人間の本質的なあり方、存在様式や運動形態を示す語。自ら、おのずから（他者の力を借りないで、それ自身に内在する働きによる）の意。自然はもともと文法的には泰然・漠然と同じ副詞であり、万物・百姓のあり方を形容する語であって、実体的な自然 nature を意味する名詞ではなかった。」<sup>17</sup>このように、中国の伝統的な「自然」は現代語の名詞の自然とは異なり、「おのずからそうである」ことを意味するのである。

現代中国社会における「自然」についての理解は、西洋的な客観的な自然環境の概念に加えて、中国に伝統的な自然に順応する意味もある。胡艶林は、古代から現代に至る中国文化の中で、自然に対する理解の時代的変遷をまとめて、「西洋文化における『自然環境』は二層の意味があり、直接存在する物理的な自然界と、物事の変化が従う客観的な必然的な規律という意味がある。」と説明している。しかし、「中国の伝統的な思想は自然に対して、親和的で、順応し畏敬する態度を持つ。」<sup>18</sup>つまり、現代においても、中国人の自然の認識は、自然に従う感情と態度を示す感性的な意味が強いと思われる。

しかし、自然に対する好意的な態度や感情を持つ現代中国では、一方で日々に悪化する深刻な環境問題に直面している。人口の増加と経済の発展に伴い、特に工業化と都市化の加速が、

自然環境を圧倒し生態系に大きな問題を引き起こしてきた。<sup>19</sup>胡は、具体的な事例を挙げ、「先進国と比べ、中国の環境問題への理解は比較的遅い。改革開放から工業化は絶えず進展し、生態環境はますます悪化している。」と述べている<sup>20</sup>。また、胡は環境思想研究者であるDonald Worsterの理論を引用し、「環境を改善するための前提は文化の改革である」と述べている。<sup>21</sup>つまり、文化の改革によって人間の環境意識を喚起してはじめて、自然環境を改善することができるということである。具体的には文学をはじめ、ダンスや演劇のような芸術媒体を用い、環境保護の意識を呼び覚ましてから徹底的に環境を改善する必要がある。<sup>22</sup>

環境保護を考える際には、人間と自然との調和を表す伝統的概念である「天人合一」が重要であると思われる。「天人合一」とは、『中国哲学辞典』によれば「儒家の哲学の基本的な概念」の一つである。「天人合一の思想の最終的な境地は、世の中で、一切のものが、互いに調和的に共生する平和的な世界に到達することである。」<sup>23</sup>道教にも同じような思想があり、中国古代から現在まで、「天人合一」の思想は変化しているが、現代の一般的な理解として、万物一体の境地に到達することが求められていると考えられる。さらに、宋代の万物生成と関連する「仁」の観念は、人の道徳性と宇宙自然の法則とを一つながりのものとする天人合一の理の観念の成立と関係がある。また、万物一体の「仁」は、人々が利己や利欲を克服することを強調している。さらに仁は自他相互の生存を認めあう、生存権を内包した相互関係的な「仁」といった面を持つ。<sup>24</sup>

「天人合一」が、中国の伝統芸術の美学的認識に影響を与えてきたことは事実である。この概念は、中国絵画をはじめ、民族音楽や中国舞踊のような芸術創作にしばしば影響を与えている。例えば、曹永林は、天人合一の思想と中国絵画の美学的特徴の結びつきについて論じている。「認識のモデルと思考の方式から見れば、古代の中国人は、人間と自然を全体的な結びつきと見ていた。『天』と『人』は同じ『道』を持つ。簡単に言えば、人間と自然は統一されているということが『天人合一』であるという芸術的な一般認識がある。」<sup>25</sup>また、王力蓉の『中国舞踊文化研究』は、天人合一の認識は中国古典舞踊に深い影響を与えたと論じている。<sup>26</sup>中国古典舞踊が中国の伝統的文化や芸術要素を融合したように、中国現代バレエも、人間と自然を合一する理想的な境地を追求することが、この作品『鶴の召命』によって表現されていると考えられる。

さらに、万物一体の自然は、美の概念と関連している。胡は、「美しい自然」について以下のように説明し、イメージとして典型的な中国田園詩の例を挙げている。胡によれば、中国人は、「魏と晋の時代から、自然の美しさを発見し始めた。自然に近づく生活様式が、魏と晋の時代から人気のある生活様式になった」。このような「美しい自然」のモデルは陶淵明の詩によって想像できる。「山水」、「田園」文化を強調し、「美しい自然」をモデルとし、人間が「自然に回帰する」無為の心境を追求するという認識が強調されている。<sup>27</sup>つまり、人間が自然の風景の一部になり、一緒に調和のとれた空間を構成するのである。

現代中国では文学的、芸術的な作品が人間と自然との関係に注目し始めている。例えば、児童文学研究者の王景は、現代児童文学作家である劉先平の文学作品を分析し、人間と自然の関係で「天人合一」の理念が強調され、それこそ文学者たちの追求する境地であると論じている。王は、「(中国) 古代から、文学における人性と『人道』は、すべて自然の前で利己的であり、一方的である。人性と『人道』は人間同士の調和及び人間と社会の調和を強調するだけで、人間と自然の調和が無視されている。」と述べている。また、「物質的な開発を過剰に重視することになって精神的危機が引き起こされる。人間の靈魂を慰めることができる精神的家を失わせる。」と述べている。<sup>28</sup>つまり、「自然」という概念は中国的文脈から見れば、自然環境を示す一方で、伝統思想における「天」、「地」、と「人間」のバランスや調和の境地の意味も含まれている。

このように、中国では環境問題をテーマとする文学作品が現れ、文学と環境問題についての研究も進んでいる。自然環境と関連するダンス作品はまだ少ないが、『鶴の召命』は人間と自然の問題を取り上げる先駆的な作品だと思われる。

### 3.2. 『鶴の召命』における作品構成と現代中国の自然観

『鶴の召命』は、人間と鶴の物語をめぐって展開し、人間と自然が共感しつつ対話することの重要性を舞台上で表現している。また、中国の伝統思想である「天人合一」を万物調和の理想の境地の追求と解釈する現代的な理解が表現されていると考えられる。

序「鶴の思い出」、第一幕「青春を謳歌、未来への憧れ」と第二幕「沃野の上の飛翔、雲の彼方」という『鶴の召命』の改訂版の構成から見ると、第一幕の都市の空間では、人間同士の世界が表現され、第二幕において大自然の中で人間と鶴の群れの共生が表現される、という区分がはっきり分かる。このような構成から見れば、『鶴の召命』は単なる英雄主義的な人物を賛美する作品ではなく、生と死、時空を超越し、自然と人間が調和する「天人合一」の境地を追求することが強調されていると考えられる。以下では、まず文化的象徴としての鶴と人間との関連という観点から論じていく。

#### 3.2.1. 文化的象徴としての鶴

作品の構成から見ると、人間が中心となる世界と鶴が中心となる世界が分けられているが、本質的な関連性を持って表現されている。それは、主人公の人物像と文化的象徴としての鶴の表現が通じ合うからだと思われる。

まず、振付を見ると、作品全体では夢娟と丹丹には同じ動作が、以下のように、五回用いられている。つまり、①「序」での丹丹と致遠が夢娟を偲ぶ場面、②第一幕における卒業式の後のパーティーで致遠が夢娟に気持を打ち明ける場面、③夢娟が致遠に鶴との絆のために故郷に帰る理由を説明する場面、④夢娟が致遠と別れる前の場面、⑤第二幕の後半で死んだ後で靈魂となって戻ってきた夢娟が丹丹と致遠と三人でパ・ド・トロワを踊る場面である。両者には鶴の鳥としての動きを真似た動作が用いられている。すなわち、致遠は、片手で夢娟の顔の片側



を優しく撫でる。その後、夢娟は、鶴のように頭を下げて、致遠の手の下から上に潜り抜ける。丹丹の動きにも同じ振付がみられる。このことから、人間である夢娟と、鶴の丹丹は、一種の鏡像として、人物造形の相同性によって、天人合一の境地が表れていると考えられる。

赤という色彩のシンボリックな使い方も注目される。この赤の色彩は作品の中で四回用いられる。序における夢娟の幻影が赤いシルクを持って踊る場面は、作品最後で赤いシルクを揚げた夢娟が朝日の前方を通過する場面と対応する。また第一幕の卒業のパーティー終わった後致遠は夢娟に告白するパ・ド・ドゥでは、致遠は夢娟に赤いバラを贈る。バラは愛のシンボル、というよりも愛の賜物、純粋な愛の賜物のシンボルである。<sup>29</sup> 致遠のバラを右手で持っている夢娟は、致遠の愛を受け取りたい気持ちを表現している。また、第一幕の終わりの「鶴の思い出」のシーンでは、夢娟は左手首につけている赤いロープを致遠に渡す。この赤いロープは鶴の赤い頭頂部と呼応して、変わらぬ愛情の持ち主である夢娟と鶴のつながりを暗示している。しかし、鶴と恋人の板挟みになった夢娟の矛盾する気持ちも強調されている。

また、夢娟の恋愛観と愛情の文化的象徴である鶴の間にも関連性がある。第一幕は卒業式とパーティーの場面から始まり、主人公とクラスメートや教師たちとの群舞やマイムがあり、男女の主人公の恋愛テーマを表すパ・ド・ドゥがある。主人公のパ・ド・ドゥによって、物語が進んで行くとともに、二人の感情は徐々に変化していく。夢娟と致遠の愛がまさに鶴と結び付いている。なぜならば、中国文化において、鶴は、ロマンティックで永遠の愛情の象徴であると考えられるからである。野生の丹頂鶴は一般的に誠実でパートナーを変えずに一生を過ごす。例えば、揚州の大明寺には「鶴塚」があり、そこに『双鶴銘』という石碑が立てられている。清の光緒帝の時代、星悟と呼ばれる大明寺の住職が一对の鶴を飼っていた。その中の一羽が肢の病で死んだ。もう一羽は毎日悲しみの声をあげ、食わずに一緒に死んでしまった。星悟は、それを見て感動し、鶴たちのために石碑を建立した。石碑には、「生并栖兮中林，死同穴兮芳岑」（生きる際は一緒に森林で住み、死の際も同じ穴で埋葬させるというように、生死を共にするという意味）<sup>30</sup> という詩文が刻まれ、生死を超越して、愛を貫く鶴たちを賛美する。このエピソードが示すように、鶴は愛において変心しない誠実の象徴となっており、その愛は生死を超越するのである。この文化的な象徴としての鶴は夢娟の人格的特徴と一致すると言える。また、夢娟と致遠の愛は、時間的、空間的な距離を超越した永遠の愛である。作品の中で、夢娟は鶴と同じような超然とした気質を持っていると思われる。振付から見ると、夢の中で踊るパ・ド・ドゥと夢娟が致遠に鶴との絆のために故郷に帰る理由を説明するパ・ド・ドゥを比較すると、二人の身体接触の空間は変わらず、親密さが表現されている。夢の中で踊るパ・ド・ドゥにおいては、夢娟が致遠によって腰を抱かれ、持ち上げられて踊るような、身体接触が多さが目立つ。このような身体的な密接によって、遠く離れていても夢娟の致遠に対する愛が変わらず、致遠を思っていることが分かる。夢娟は高潔で変わらぬ愛情の文化的象徴である鶴と同じような超然とした気質を持っていると思われる。

### 3.2.2. 作品の構成から見る人間と自然の関係

『鶴の召命』における「自然」という概念は、主に二つのポイントをめぐって展開されていると思われる。まず、第一幕の都市と対比されて、作品の第二幕では、広大な自然を背景とした鶴の群舞の表現が、全体で第二幕のうち20分程を占める。鶴のテーマとして、鶴のパ・ド・ドゥ、パ・ド・トロワ、及び群舞が展開されている。また、第二幕においては葦の舞台装置及び照明などを用いて、都市にはない生態環境が舞台上で表現されている。このようなたくさんの鶴の描写、及び主人公と鶴の群れと一緒に踊る振付によって、『鶴の召命』では、古典バレエの『白鳥の湖』を意識した人間と動物の物語が展開されている。ただし、『白鳥の湖』のロマン派的な幻想的表現と異なり、『鶴の召命』は鳥と人間の恋愛譚ではなく、現実的なテーマ、つまり、鶴を救い出すために自分を犠牲する筋書きによって自然との共生を強調しようとする目的を持っている。前述したように英雄主義的な教育効果を生み出すような人物像が強調されている。

以下では自然との共生というテーマに関して、「美しい自然」、「恐ろしい自然」及び「天人合一」という三つの段階に即して分析していく。

#### 3.2.2.1. 「美しい自然」

まず、「美しい自然」を表している具体的な例として、第二幕前半部分の鶴の群舞から、夢絹と鶴の踊りの以下のような場面を挙げたい。葦を表す舞台装置と照明を用い、一幕の建物ばかりの現代都市の夜の大学を対比して、朝の美しい自然の風景が舞台上に現れる。ここには、現在の中国の都市と自然の対立分化が反映されていると思われる。図1<sup>31</sup>のような鶴の群舞の場面では、葦を表す舞台装置と温かい感じする舞台照明を用い、鶴の女王が鶴の群れを率いて踊る。前景の床は白く、鶴の群れの衣装も白い。後景には緑の葦を配置し、背後のスクリーンにはオレンジ色の照明を当てて、色彩の対比を演出している。



図1 鶴の群舞の場面



図2 夢絹と丹丹の再会

また、第二幕で鶴の群舞の後、夢絹は丹丹とその家族と再会する。ここでは、図2<sup>32</sup>のような、夢絹と丹丹が互いに感情を表す踊りがある。図2は、丹丹が右手を夢絹の肩で支え、左手を上上げて、左脚をアティチュードし、夢絹の隣で飛んだり遊んだりする場面である。このような動きは、最初再会した時丹丹が夢絹を認識せず怖がった表現と比べ、お互いを認めてから

の親近感を表している。また、続く場面において、陽気な音楽の下で、朗らかな気持ちで夢娟と、丹丹の子である雛鶴達が芦辺で遊びまわる。鶴の幼鳥たちは両翼を広げ、活発で可愛い動きが見られる。夢娟は竿を持って湖の中で舟を操るようにして、足を伸ばす。まるで、子供時代の夢娟と丹丹と一緒に過ごした日々を思い出して、心が晴れ晴れするようである。再会した互いの気持ちはしっくり合い、第一幕の大学と全く違う自然の風景の中で、人間と鶴の調和的な共生が表現されている。

「美しい自然」では、一貫に古典バレエ的な振付がみられる。鶴の20分程の踊りの中でも、群舞でも、キャラクターダンスでも、バレエ的なパ（ステップ）で踊っている。また、夢娟と丹丹との再会の場面でもバレエ的な振付が用いられている。

### 3.2.2.2. 「恐ろしい自然」

一方で、第二幕後半では激しい嵐の中で、「恐ろしい自然」のイメージが展開され、自然への畏怖が表現されている。図3<sup>33</sup>のように、夢娟が鶴の女王とともに、沼地に引きずり込まれる鶴の群れを救う場面で、作品の筋立てはクライマックスに達する。

図3と図4<sup>34</sup>では、以下の場面が示されている。鶴の群れはすでに沼に落ちている。大雨と雷を表現する激しい音楽の下、暗い照明を用いる舞台上で、黒い衣装を着て、沼地を表現するダンサーたちの顔は、黒い布のようなもので覆われており、ぐにゃぐにゃした柔らかい動きをして人間ではない不気味なものを演出している。このダンサーたちが地面を転がるという動きが、危険が迫っていることを示している。これに続く場面で、夢娟は丹丹と一緒に、雛鶴たちと他の鶴たちを沼地から助けて、安全な場所へ移動させる。この場面の最後に、図3のように沼地を表現するダンサーが二つのグループに分かれ、それぞれが夢娟と丹丹を持ち上げる。沼地役のダンサーによって持ち上げられた夢娟と丹丹の身体は波のように弄ばれ、沼地で苦闘する様子が見える。白い衣装を着て、身体を垂直方向に伸ばす、夢娟と丹丹のバレエ的な身体を比較すると、沼地役の黒い群舞は、モダンダンス的で、重心が低く、地面を水平方向に転がる動きが特徴的である。最後に図4のように夢娟の身体は沼地に沈んでしまう。夢娟と丹丹が硬直した身体を長く伸ばすことによって、恐怖にとらわれる感じがよく出ている。人間は自然の前で単なる小さな存在である。



図3 夢娟と丹丹が鶴の群れを救う



図4 丹丹を助けて、自分の生命を捧げる夢娟

また、ここには、中国の伝統的な文化的象徴としての鶴の特徴と一致する、鶴との絆に殉じ

る高潔な夢娟の人物像が表現されている。つまり、夢娟の人柄と鶴の丹丹が象徴する無私無欲で犠牲的な精神が賛美されている。

このように、『鶴の召命』では「恐ろしい自然」を「美しい自然」と対比して表現することによって、自然の両面性を強調し、人間の弱さが表現されている。内容的に、物語のクライマックスであり、最後の天人合一を表す場面の伏線となると考えられる。振付では、伝統的な「美しい自然」のイメージを表現するために、バレエ的な身体技法が用いられる。一方で、現代社会における環境保護の問題を含め、「恐ろしい自然」を強調するために、モダンダンス的な身体表現が用いられていると考えられる。

### 3.2.2.3. 自然との共生——天人合一

『鶴の召命』の最後の場では、夢娟の死後、恋人の致遠が夢娟の故郷にやって来る。葦辺に飛んできた丹丹を見て、涙を浮かべる致遠は、まるで夢娟の幻を見たように思う。以下で述べるように、幻の夢娟と鶴と致遠によるパ・ド・ドロワによって、夢娟と丹丹が二重写しになること、つまり、人間と鶴が一つの全体となることで、互いに反映する一体になることが表現されている。

第二幕の最後から二つ目の場面で、暗い背景に白い照明が当たった舞台上で、白いドレスを着た幻の夢娟と同じく白い衣装を着た丹丹が、致遠の周りを回っている。夢娟と丹丹は相似形となっており、人間と動物の限界を越え、まるで二人で一人のように思われる。続く場面では、青緑の照明の中心が白い照明で浮かび上がり、外界と切り離された三人だけを強調している。致遠は真ん中で立って、両手で夢娟と丹丹を同時に支えて、人間と動物を同じ地平に置き、両者が平等な存在であることを表している。

作品最後の場面では、図 5<sup>35</sup>のように、昇りつつある朝日の下で、鶴の群れが翼を羽ばたかせる。青い背景の舞台の上部空間で赤い照明に丸く照らし出されて、赤いシルクを揚げた夢娟が通過し、致遠は走って追っているようだ。前述のように、赤は夢娟と鶴を繋ぐシンボルカラーであり、ここでは、朝日の赤と結び付けられることで、「未来」や「希望」を象徴すると考えられる。

さらに、この場面では、『鶴の召命』という作品全体の中で唯一上部空間が使われる。犠牲になった夢娟の靈魂と、生きている致遠と鶴の群れとの垂直的な空間構成が見られる。このような美しい絵巻によって、生死と時空を超越する永遠性が強調され、人間と自然が一体になる境地、天人合一の象徴的な表現となっている。



図5 天人合一の美しい絵巻

### 3. 結論

「繁栄期」の現代中国バレエは、「発展期」の経験に基づき、バレエによって中国の精神的な豊かさを表す作品を創作している。このような作品において、中国の伝統的な思想と、理想的な境地との関係を作品の人物に投影することが、議論されている。中央バレエ団の作品『鶴の召命』は、人間と自然が共生する「天人合一」思想を表現することで、中国文化における伝統的な価値の重要性を示し、精神的な豊かさを表現している。

実話に基づき、ロマンティックな恋愛譚を加えることで、バレエの中の夢娟の人物像が鮮明になった。また、夢娟は、高潔で、変わらぬ愛情の文化的象徴である鶴と同じような超然とした気質を持っていることが分かった。恋人との愛を重視する一方で夢娟は、子供時代から丹丹と互いに離れがたい同朋愛を持っていた。故郷に戻って鶴の世話という理想を実現しようとする、夢娟の英雄的な人物像が創作され、鶴を救うために自己を犠牲にした美徳が賛美されている。さらに、作品の最後に、生死と時空を超越する永遠性が表現され、現代中国において人間と自然が共生するという伝統的な天人合一の思想の再解釈が示されている。

#### 謝辞

本論文執筆にあたって、資料の閲覧を許可して下さった中国中央バレエ団に、心より感謝いたします。

#### 映像資料

中国中央バレエ団資料館資料の NBC-The Crane Calling-Act1、NBC-The Crane Calling-Act2 (『鶴魂』2016年5月8日上演の改訂版)

#### 引用文献

- ① 『新明解国語辞典第5版』, 三省堂出版社, 2003, 678頁。
- ② 謝凡, 「論芸術的民族化」, 華南師範大学学報(社会科学版), 1986-3, 105-107頁。
- ③ 鄒之瑞, 「新中国芭蕾舞史研究」, 中国芸術研究院研究生院博士論文, 2008, 19-140頁。
- ④ 羅辛, 「芭蕾舞中国学派的創立及其近年来的創作实践」, 『北京舞蹈学院学報』, 2005。
- ⑤ 平林宣和, 「革命現代京劇と身体技法の混淆—建国から文革前夜までの革命様式をめぐる言説と実践」, 『近現代華北地域における伝統芸能文化の総合的研究』, 2007, 雑誌論文『教養諸学研究 第百二十三号』, 39-61頁。
- ⑥ 馮双白, 『新中国芸術史・新中国舞踊史』, 湖南美術出版社, 2002, 65-70頁。
- ⑦ 于平, 「接着說中国故事——中国芭蕾舞劇<<鶴魂>>觀後」, 『中国芸術報』, 2015年9月30日005版, 1-2頁。
- ⑧ 馮林, 「鶴之靈、舞之魂——芭蕾舞劇<<鶴魂>>印象」, 『中国戲劇』, 2016, 34頁。

- ⑨ 溝口雄三，池田知久，丸山松幸 [編]，『中国思想文化事典』，東京大学出版会，2001。
- ⑩ 胡艷琳，「文学現代性中的生態处境-20 世紀中国文学現代演進中的自然之維」，北京大学博士論文，2012 年 6 月，13-15 頁。
- ⑪ 溝口雄三，池田知久，丸山松幸 [編]，『中国思想文化事典』，東京大学出版社，2001，37 頁。
- ⑫ 「国家環保総局局長解振華：国家林業局局長周生賢：困擾中国環境十大問題」，『人民政協會報』2001 年 9 月，5 版。
- ⑬ 王景，「人与自然和谐共生-論劉先平兒童文学」，安徽大学修士論文，2010，1-50 頁。
- ⑭ 韦政通，『中国哲学辞典』，吉林出版集团有限责任公司，2009，89 頁。
- ⑮ 曹永林，「天人合一思想与中国画的审美特色」，山西大学修士論文，2005，6-12 頁。
- ⑯ ジャン・シュヴァリエ，アラン・ゲールブラン共著，金光仁三郎（代表）訳，『世界シンボル大事典』，1996，大修館書店，799 頁。
- ⑰ 馬国良，「丹頂鶴的文化現象」，『学术交流』2004，11 頁。
- ⑱ 曹永林，「天人合一思想与中国画的审美特色」，山西大学，2005，6-12 頁。
- ⑲ 王力蓉，『中国舞蹈文化研究』，中国文聯出版社，2014，43 頁。

#### オンライン資料

- ① [新聞直播間] 民族芭蕾舞劇《鶴魂》：鶴舞東方 打造民族芭蕾舞新經典，  
<http://news.cntv.cn/2015/11/09/VIDE1447038132525892.shtml>
- ② 「習近平談新時代堅持和發展中国特色社会主義的基本方略」，  
[http://www.xinhuanet.com/politics/2017-10/18/c\\_1121820368.htm](http://www.xinhuanet.com/politics/2017-10/18/c_1121820368.htm)
- ③ 「芭蕾舞劇『鶴魂』修改版将在天橋演出」，  
<http://yule.sohu.com/20160504/n447610451.shtml>
- ④ 中華人民共和国総領事HP <http://www.china-embassy.or.jp/jpn/zgyw/t1242596.htm>
- ⑤ 中央バレエ団 [http://blog.sina.com.cn/s/blog\\_473f97a00102y23h.html](http://blog.sina.com.cn/s/blog_473f97a00102y23h.html)
- ⑥ “两会微日记” 系列之十 馮英代表：《鶴魂》成“中芭”試金石 年輕人要“補短”  
<http://culture.people.com.cn/n1/2016/0312/c1013-28193523.html>

#### 図版出典

- 図 1 [http://blog.sina.com.cn/s/blog\\_473f97a00102w511.html](http://blog.sina.com.cn/s/blog_473f97a00102w511.html)
- 図 2 [http://www.ballet.org.cn/news\\_detailn/newsid=1497.html](http://www.ballet.org.cn/news_detailn/newsid=1497.html)
- 図 3 [http://blog.sina.com.cn/s/blog\\_473f97a00102w511.html](http://blog.sina.com.cn/s/blog_473f97a00102w511.html)
- 図 4 [http://www.ballet.org.cn/news\\_detailn/newsid=1497.html](http://www.ballet.org.cn/news_detailn/newsid=1497.html)
- 図 5 [http://www.ballet.org.cn/news\\_detailn/newsid=1497.html](http://www.ballet.org.cn/news_detailn/newsid=1497.html)

<sup>1</sup> 『鶴の召命』という日本語訳は、筆者による。「鶴魂」(中国語原題) の中国中央バレエ団による英訳 *The Crane Calling* を参考にした。「召命 Calling」には、「呼ぶこと」の意味のほか、「神の恵みによって神に呼び出されること」というキリスト教的意味がある。『新明解国語辞典第 5 版』，三省堂出版社，2003，678 頁参照。鶴の呼び声と、鶴の保護という主人公の「使命」の両方の意味があると考えられる。

<sup>2</sup> 謝凡，「論芸術的民族化」，『華南師範大学学報 (社会科学版)』，1986-3，105 頁。

<sup>3</sup> 鄒之瑞，「新中国芭蕾舞史研究」，中国芸術研究院研究生院博士論文，2008，19 頁-140 頁。

<sup>4</sup> 鄒之瑞，『新中国芭蕾舞史研究』，陳瑞，『当代中国芭蕾舞劇民族化探究』，内モンゴル師範大

学修士学位論文，2010。羅辛，「芭蕾中国学派的創立及其近年来的創作实践」，《北京舞蹈学院学报》，2005の論文において、このバレエの特別な時期を「文革期の中国バレエ」と呼んでいる。

<sup>5</sup> 「革命現代京劇は「模範劇（样板戏）」と呼ばれるが、模範劇には京劇以外のバレエ作品なども含まれている。」平林宣和，「革命現代京劇と身体技法の混淆—建国から文革前夜までの革命様式をめぐる言説と実践」，《近現代華北地域における伝統芸能文化の総合的研究》，2007，雑誌論文『教養諸学研究 第百二十三号』，39-61頁。

<sup>6</sup> 文革期において、民衆が毛沢東を賛美するための集団舞踊であり、広場ないしはパレードで踊られた。代表的な伴奏曲は『北京の金山上』、『敬愛的毛出席』などである。馮双白，《新中国芸術史・新中国舞踊史》，湖南美術出版社，2002，68頁。

<sup>7</sup> 鄒，「新中国芭蕾舞史研究」，19頁-140頁。

<sup>8</sup> 中央バレエ団 [http://blog.sina.com.cn/s/blog\\_473f97a00102y23h.html](http://blog.sina.com.cn/s/blog_473f97a00102y23h.html)

<sup>9</sup> 董文，「芭蕾舞劇『鶴魂』修改版将在天橋劇場演出」，<http://yule.sohu.com/20160504/n447610451.shtml>（確認日 2018年7月30日）。

<sup>10</sup> 中央バレエ団 [http://blog.sina.com.cn/s/blog\\_473f97a00102y23h.html](http://blog.sina.com.cn/s/blog_473f97a00102y23h.html)

<sup>11</sup> [新聞直播間]民族芭蕾舞劇《鶴魂》：鶴舞東方 打造民族芭蕾新經典，<http://news.cntv.cn/2015/11/09/VIDE1447038132525892.shtml>（確認日 2018年7月28日）。

<sup>12</sup> <http://news.cntv.cn/2015/11/09/VIDE1447038132525892.shtml>（確認日 2018年7月28日）。

<sup>13</sup> “两会微日记”系列之十，馮英代表：《鶴魂》成“中芭”試金石 年輕人要“補短”  
<http://culture.people.com.cn/n1/2016/0312/c1013-28193523.html>（確認日 2018年7月28日）。

<sup>14</sup> 中華人民共和國總領事 HP <http://www.china-embassy.or.jp/jpn/zgyw/t1242596.htm> 参照。

<sup>15</sup> 于平，「接着說中国故事——中国芭蕾舞劇<<鶴魂>>觀後」，《中国芸術報》，2015年9月30日 005版，1-2頁。

<sup>16</sup> 馮林，「鶴之靈、舞之魂——芭蕾舞劇<<鶴魂>>印象」，《中国戲劇》，2016，34頁。

<sup>17</sup> 溝口雄三，池田知久，丸山松幸 [編]，《中国思想文化事典》，東京大学出版社，2001，37頁。

<sup>18</sup> 胡艷琳，「文学現代性中的生態处境—20世紀中国文学現代演進中的自然之維」，北京大学博士論文，2012，13-15頁。

<sup>19</sup> 現在中国の環境問題には、大気汚染をはじめ、水質汚濁、廃棄物処理、土砂災害、土壤喪失、干ばつと洪水の問題、生物多様性破壊の問題、WTOと環境問題、三峡（中国の長江本流にある三つの峡谷の総称）地帯の環境問題、持続的な有機汚染物質のような十大環境問題がある。「国家環保総局局長解振華：国家林業局局長周生賢：困擾中国環境十大問題」，《人民政協會報》2001-9，第5版参照。

<sup>20</sup> 胡，《文学現代性中的生態处境—20世紀中国文学現代演進中的自然之維》，13-15頁。

<sup>21</sup> 胡，《文学現代性中的生態处境—20世紀中国文学現代演進中的自然之維》，9頁。

<sup>22</sup> 胡，《文学現代性中的生態处境—20世紀中国文学現代演進中的自然之維》，9頁。

<sup>23</sup> 韦政通，《中国哲学辞典》，吉林出版集团有限责任公司，2009，89頁。

<sup>24</sup> 「人の道德性である仁によって調和が予定されているのであり、その点で仁は個なき、あるいは個を止揚した共同倫理というべきであろう。結局それは、天地万物を一体とした中国的な宇宙観、天人合一観に由来した特質とみなされるのである。」『中国思想文化事典』，東京大学出版社，2001，100頁-101頁。

<sup>25</sup> 曹永林，「天人合一思想与中国画的审美特色」，山西大学修士論文，2005，6-12頁。

<sup>26</sup> 王力蓉，《中国舞踊文化研究》，中国文聯出版社，2014，43頁。

<sup>27</sup> 陶淵明（365-427年）中国の魏晉南北朝時代の詩人。隱遁後、農作業に従事しつつ、詩文を創作し、後世「隱逸詩人」「田園詩人」と呼ばれる。李白、白居易、辛弃疾、蘇軾などの詩人は、陶淵明によって直接的または間接的に影響を受けている。

<sup>28</sup> 王景，「人与自然和谐共生—論劉先平兒童文学」，安徽大学修士論文，2010，19-27頁参照。

<sup>29</sup> ジャン・シュヴァリエ，アラン・ゲールブラン共著，金光仁三郎（代表）訳，《世界シンボル大事典》，1996，大修館書店，799頁。

<sup>30</sup> 『双鶴銘』の中の詩文。馬国良，「丹頂鶴的文化現象」，《學術交流》2004，11頁参照。

- 
- <sup>3 1</sup> [http://blog.sina.com.cn/s/blog\\_473f97a00102w511.html](http://blog.sina.com.cn/s/blog_473f97a00102w511.html) (参照日 2018 年 3 月 28 日).
- <sup>3 2</sup> [http://www.ballet.org.cn/news\\_detail/newsid=1497.html](http://www.ballet.org.cn/news_detail/newsid=1497.html) (参照日 2018 年 3 月 28 日).
- <sup>3 3</sup> [http://blog.sina.com.cn/s/blog\\_473f97a00102w511.html](http://blog.sina.com.cn/s/blog_473f97a00102w511.html) (参照日 2018 年 3 月 29 日).
- <sup>3 4</sup> [http://www.ballet.org.cn/news\\_detail/newsid=1497.html](http://www.ballet.org.cn/news_detail/newsid=1497.html) (参考日 2018 年 3 月 29 日)
- <sup>3 5</sup> <http://english.cri.cn/7146/2015/09/29/3262s898031.htm> (参照日 2018 年 3 月 29 日).